

鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 平成 29 年度までの推進状況 ～

(平成 30 年 10 月)

鹿 角 市

目 次

I. 総括検証	1
(1) 評価	1
(2) 重点的課題	2
II. 施策ごとの検証	
基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる	
(1) 域外市場産業の活性化	3
(2) 地域資源の循環	6
(3) 産業人材の確保	8
基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる	
(1) 首都圏等からの移住の促進	9
(2) 都市ブランドの確立	11
基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	
(1) 結婚しやすい環境づくり	13
(2) 安心して出産できる環境づくり	14
(3) 子育て支援サービスの充実	14
(4) 子育てに伴う経済的負担の軽減	15
基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる	
(1) まちなか賑わい創出	16
(2) 地域コミュニティの活力再生	18
(3) 健康生き生き長寿社会の実現	20
III. 検証スケジュール	21

I. 総括検証

(1) 評価

笑顔あふれる元気な「かつの」を目指した「鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中間年となる3年目の取組が終了した。

暮らしやすい地域づくりのための最も重要なアウトカムとして設定した4つの基本目標については、雇用創出数が目標に近い成果となったが、基本目標2の転入者数や基本目標4の住みよこちの満足度については、2年連続で前年を下回る結果となった。

産業力強化による雇用の創出は、総合戦略推進の大黒柱となる分野であることから、生み出された「しごと」を基軸に、移住施策の推進や若者の希望を叶える支援へと展開を図り、目標値の達成を目指していく。

基本目標3については、数値の公表を待たなければならないが、子どもの預かり支援や子育てにかかる経済的負担の軽減など、施策の充実が図られており、子育ての多様なニーズに対する支援制度の利用も増加している。一方で地方の医師不足が背景となり、本市で唯一受入れのあった地域中核病院の分娩取扱機能が他市へ集約されることから、産婦人科医の確保や妊産婦への支援が急務となっている。

KPI（重要業績評価指標）については、3年目からほとんどの事業に着手した結果、全体で67指標のうち65指標が評価対象となったが、「目標に到達した指標」及び「目標には到達していないが単年度の計画以上に目標に近づいた指標」の割合は全体で50.8%にとどまっている。

次ページ以降には、施策ごとの検証結果を記載しているが、抽出された課題を踏まえながら、平成30年度からの事業着手を含む各事業間の効果的な連携を図り、基本目標の達成に向けて一層取組を進めていく必要がある。

【基本目標の状況】

目標値（H31）	実績値			
	H27	H28	H29	評価
基本目標1【雇用創出数：累計290人増】 笑顔あふれる雇用をつくる	62人増	147人増	217人増	計画どおり
基本目標2【転入者数：年間700人】 笑顔あふれる人の流れをつくる	626人	595人	533人	一層の取組が必要
基本目標3【合計特殊出生率：1.80】 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	—	—	—	一層の取組が必要
基本目標4【住みよこち（満足度）：60%】 笑顔あふれる地域をつくる	55.2%	52.5%	51.1%	一層の取組が必要

【KPI の状況】

基本目標区分		指標数			
				うち着手事業分	
				計画どおり ¹	計画どおりではない
基本目標 1	件数	28	26	12	13
笑顔あふれる雇用をつくる	割合			46.2%	50.0%
基本目標 2	件数	10	10	5	5
笑顔あふれる人の流れをつくる	割合			50.0%	50.0%
基本目標 3	件数	9	9	6	3
笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	割合			66.7%	33.3%
基本目標 4	件数	20	20	10	10
笑顔あふれる地域をつくる	割合			50.0%	50.0%
全体	件数	67	65	33	31
	割合			50.8%	47.7%

(2) 重点的課題

人口ビジョンにおいて、本市では特に社会減の解消が人口減少及び少子高齢化の抑制に効果的であると整理したことを踏まえ、初年度から移住促進に力を入れて、様々な情報発信や相談、移住体験機会の提供を行いながら、転入数の増加に努めている。また、農業以外の分野でも、若者の地元定着を図る取組として、まちなかオフィスを核とした起業支援等に着手し、転出数の減少にも努めているが、依然として社会減の解消には至っていないことから、双方の取組においては、転入希望者や地元の若者のニーズに応えられる細やかな支援策を講じていく必要がある。さらには、移住者が移住者を呼び込む好循環を確立するため、基本目標 1 と基本目標 2 の取組の連携も強化する。

各分野において人材の確保が課題となっている現状を踏まえ、未着手である A ターン就業の効果的な促進策や、地域産業の振興に欠かせない小規模事業者の事業承継など事業化に努め、産業人材の確保を図りつつ各事業間の連携を深め、職員の専門能力の向上を図りながら総合的な指標の向上を目指していかなければならない。

¹ 「計画どおり」とは、目標に到達したものと目標には到達していないが単年度の計画以上に目標に近づいたものの合計をいう。

II. 施策ごとの検証

基本目標 1

笑顔あふれる雇用をつくる

▶ 基本的方向

本市の魅力を生かした商品やサービスを生み出し、それを域外に移出することで「外貨」を呼び込み、その資金を域内循環させることで地域の所得向上を図るとともに、雇用環境の創出（拡大）を目指す。また、これらの取組の実現を目指すため、産業振興を担う人材の確保に取り組む。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
雇用創出数	—	62 人増	累計 147 人増	累計 217 人増	累計 290 人増

【検証：現状と方向性】

平成 29 年度は、外貨獲得に向けた産業振興策として冬季農業への取組を促進し、販売重視型農業を推進するとともに、道の駅「おおゆ」の整備や地域 DMO の推進、市独自の産業団地への企業誘致を進めるなど、農業、観光業、製造業それぞれで人の流れを生み、「しごと」を作り出していく産業力の強化が図られた。予定した事業はおおむね計画どおり進められ、企業立地助成金を活用した設備投資に伴う雇用増が 45 人、創業支援事業計画に基づく起業・創業者が同計画の年度目標を上回る 12 人となるなど、全体で 70 人の雇用が生み出されていることから、引き続き取組を推進する。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）域外市場産業の活性化

（ア）競争力の高い産業の育成

① 農業生産物の高付加価値化

○ 農業経営体の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
経営サポートチームへの 相談件数	—	—	13 件	累計 46 件	累計 24 件

○ 複合経営の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
主力作物作付面積（6品目）	56.3ha	57.3ha	59.1ha	67.8ha	70.0ha

○ ブランド確立・新ブランド育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
淡雪こまち 1 等米比率	83.8%	91.0%	88.9%	64.4%	90.0%
玄そば品質区分 2 等級以上	0%	99.7%	100%	100%	100%
北限の桃の年間販売額	1.4 億円	1.5 億円	1.1 億円	1.1 億円	1.9 億円
かつの牛の飼養頭数	345 頭	396 頭	450 頭	517 頭	591 頭
新規作物取り組み経営体数	—	3 経営体	6 経営体	14 経営体	9 経営体
こだわり作物栽培実践者	—	—	6 経営体	12 経営体	80 経営体

【検証】

経営サポートチームへの相談支援が増加しており、競争力のある農業経営体の育成が進められている。複合経営の推進については、枝豆を主として採算性の高い作物への転換が図られており、作付拡大についても計画どおり進んでいる。

ブランド農産物については、冷害などで成熟不良となった作物があったものの、啓翁桜やテッポウウリなど花卉の新たなブランド産品育成が進んでいるほか、かつの牛も飼養頭数を伸ばしている。

少量多品種のこだわり作物の栽培に向けた取組がスタートし、野菜ソムリエの育成も行われたが、販売体制の構築を進めるためにも実践者の増加を図る必要がある。

② 地元企業の高度化支援

○ 設備投資支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
新增設及び事業の高度化件数	—	13 件	累計 24 件	累計 38 件	累計 42 件
小規模事業者応援件数	—	—	—	—	累計 30 件

○ 新商品開発・販路拡大支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
新商品研究開発件数	—	2 件	累計 5 件	累計 10 件	累計 25 件

【検証】

企業立地促進事業による事業の高度化支援等を積極的に進めたことで、制度を利用した企業の設備投資が促進され、製品出荷額の拡大に結び付いている。また、地元企業の連携推進では、まちなかオフィスを拠点に産業コーディネーターがハブとなり、域外から新規受注が生み出されたほか、食品製造関連ネットワークでは、地域製品のセット販売等の企画が進められた。

ふるさと名物のブランド化では、農商工観連携による新商品が生み出され、各事業所の活性化にはつながったが、販売につなげていくことが課題となった。

③ 観光産業の振興

○ 誘客活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
観光客数	175 万人	177 万人	169 万人	175 万人	191 万人
宿泊者数	22 万人	23 万人	23 万人	23 万人	24 万人
外国人宿泊者数	4,000 人	5,498 人	7,241 人	14,311 人	7,400 人

○ 効果的な PR

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
有料ファン会員	—	—	48 人	累計 95 人	累計 2,400 人

○ 魅力の向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
主要観光施設の入込客数	175 千人	179 千人	169 千人	167 千人	246 千人

○ 鹿角観光の確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
観光消費額※	8,335 百万円	7,233 百万円	4,827 百万円	4,683 百万円	8,613 百万円

※県統計から市が推計

【検証】

平成 29 年度は、本市観光のプラットフォームに位置付けている株式会社かづの観光物産公社の組織体制強化を進めたことにより、単年度の収支が初めて黒字計上となったほか、日本版地域 DMO 候補法人に登録されるなど観光産業確立に向けた体制構築が進んだ。また、環境省の「国立公園満喫プロジェクト」のモデル地域選定を弾みに、主に台湾からの外国人観光客が大幅に増加している。

観光客数はインバウンド対策に効果が見られるが、全体の観光客数は減少傾向にあるため、増加の兆しを確かなものにしていくためにも魅力ある旅行商品の造成を行い、国内需要を獲得する必要がある。また、有料観光ファン制度を構築し、ふるさと納税と連携した取組や楽天を活用した集中プロモーションを進めたが、計画を大きく下回っているため、有料ファンへの登録に結びつく効果的な手法を見出すことを課題と捉え、引き続き検討をしていく。

このような中、花輪ばやしにおいては、ユネスコ登録をきっかけとした 3 市連携事業による PR など効果が効果的に影響し、祭り当日の集客は過去最高の 26 万人となったほか、本市で 2 つ目の道の駅「おおゆ」の整備が進み、本市観光の訴求力が高められている。

（イ）新産業の創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
誘致企業数	—	0 社	0 社	3 社	累計 1 社
起業・創業者数	—	7 件	累計 15 件	累計 27 件	累計 35 件

【検証】

企業誘致をめぐる状況は厳しいが、市独自の産業団地整備や企業立地助成による積極的な企業誘致により、計画を大きく上回る 3 社の誘致が実現した。起業・創業支援においては、若者や女性に対する補助制度の創設や金融機関などの支援も相まって、起業・創業は、創業支援事業計画で設定している 7 件を上回る 12 件の創業に結びついた。

（２）地域資源の循環

（ア）地域内連携の活性化

○ 異業種連携の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
アグリビジネス支援件数	—	—	2 件	累計 3 件	累計 8 件

○ 地産地消の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
かづの産食ショップ 認証事業所数	—	17 事業所	累計 27 事業所	累計 30 事業所	累計 90 事業所
新電力設立数	—	—	0 社	0 社	累計 1 社

【検証】

商工会、金融機関との協定に基づく農業経営サポートチームの活動、かづの観光物産公社を中心とする地域 DMO の機能、まちなかオフィスに配置するコーディネーターの活動を通じ、引き続き地域内連携を進めていく。

農産加工及び販路拡大など、農業を産業として躍進させるための 6 次産業化につながるアグリビジネス支援については、自家製野菜を使用した加工品開発が 1 件と利用が少なかった。また、かづの産食ショップは計画を下回る認定となっており、6 次産業化と販路開拓を強化していく必要がある。

エネルギーの地産地消については、平成 29 年度は木質バイオマス導入可能性調査により、需要と供給両面の基礎情報となる資料を作成し、今後の熱利用に向けた課題を整理した。電力の地産地消については、固定価格買取制度による電力調達の採算性の検討を進めている。

(イ) 地域商業の活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
ハミングカード・コナン カードポイント付与数	14,688 千 ポイント	15,434 千 ポイント	18,133 千 ポイント	15,770 千 ポイント	14,948 千 ポイント

【検証】

商店街への新規出店や店舗リニューアルが促進されており、ポイントカードの付与数も前年より減少したものの、目標値を上回って推移している。地域内消費を喚起し外から獲得した「外貨」を地域で循環させることができるよう、各事業所の販売力強化を図る必要がある。

(3) 産業人材の確保

(ア) 人材の育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
新規農業参入企業	—	—	—	2 社	累計 4 社
産業人材育成支援事業活用者数	—	47 人	累計 107 人	累計 167 人	累計 250 人

【検証】

後継者がいないことにより廃業する事業所が見られることから、後継者対策が必要であり、地方創生推進交付金を活用して、次代を担う人材の育成を行っている。また、企業の農業参入については就農相談支援を活用し、卸売業や電子機器商社からの就農があった。

(イ) 就業支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
新規就農者数	—	1 人	累計 1 人	累計 6 人	累計 10 人
A ターン就業者数	—	—	—	—	累計 90 人
資格取得支援事業活用者数	—	81 人	累計 98 人	累計 104 人	累計 150 人

【検証】

新規就農者については、研修制度の利用促進のほか就農直後の経営支援にも取り組み、新たに 5 人が就農した。新規就農者の確保に向けては、移住就農者や 45 歳以上の中年層の人材も確保できるように就農相談セミナー等に積極的に参加し、的確な情報発信を行う必要がある。また、人材不足が顕著な業種において、A ターン就職促進の制度化を検討する。

基本目標 2

笑顔あふれる人の流れをつくる

▶ 基本的方向

移住しやすい環境を整備し、移住に結び付く情報発信やイベントを通じて UIJ ターンを促進するとともに、移住予備群となりうる交流人口の拡大を目指す。

他自治体との差別化を図りつつ自立的な活性化を進める観点から、鹿角ならではの独自の価値や誇りを具現化する「鹿角ブランド」を確立し、観光客など交流人口の拡大を図りながら地域経済を活性化し、ひいては人口の流入増、流出減をもたらすことで持続的発展につなげていくことを目指す。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
転入者数（年間）	648 人 (直近 5 年平均)	626 人	595 人	533 人	700 人

【検証：現状と方向性】

先行して移住策に取り組んだことにより推進体制が確立しており、平成 29 年度までの 3 年間で 64 世帯 115 人が移住するなど着実な成果が見られるが、転入者数については目標を下回った。魅力の発信を工夫するとともに、これまで以上に「しごと」の面のフォローを強化し、地域産業の担い手ともなる移住者を増やしていく。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

（１）首都圏等からの移住の促進

（ア）移住の促進

○ 移住促進体制の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
移住・定住サポーター登録者数	—	32 人	71 人	54 人	100 人

○ 移住情報の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
移住窓口への相談件数	—	89 件	累計 311 件	累計 546 件	累計 370 件

○ 移住体験機会の提供

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
お試し移住ツアーの開催回数	—	7 回	累計 15 回	累計 29 回	累計 25 回

○ 定住の支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
データバンク成約件数	—	6 件	累計 16 件	累計 31 件	累計 10 件

【検証】

移住コンシェルジュを配置し、情報発信や現地案内（ツアー）などが計画的に行われ、空き家データバンクの運用による利活用も進んでいる。移住相談については、LINE@による相談対応を加えたことにより、気軽な相談から実際に移住するケースやツアー申込に結びついているほか、各種フェアやお試し移住ツアー、お試し住宅の利用者も増加傾向にあり、事業への参加者が移住するなど実績につながっている。

移住促進協議会や移住者自身が主体となり移住者を支える組織として NPO 法人かづの classy などの民間団体が活動をはじめたことで、移住及び定住者に対する地域を挙げた支援に結びついている。さらに、主体的な運営ができる組織へ拡大を図るため、市との効果的な役割分担や連携を強化し、移住者の定着が新たな「ひと」を呼び込む好循環を目指す。

（イ）地域間交流の推進

○ 都市農村交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
宿泊を伴った 農作業等体験者数	—	24 人	累計 55 人	累計 84 人	累計 125 人

○ スポーツ交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
スポーツ合宿奨励補助金 利用人数（年間）	3,231 人	3,326 人	2,464 人	2,165 人	3,540 人

○ 大学等との連携

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
県外大学等調査研究活動 奨励補助金利用人数	—	—	24 人	累計 66 人	累計 400 人

【検証】

東京都葛飾区との交流は、包括的連携協定の締結を契機に、継続してきた四つ木地区との都市農村交流から大きく前進し、スポーツ交流や特産品展示、郷土芸能の披露の場などの提供に加え、教育分野での連携も図られるなど多彩な交流へ発展している。都市農村交流では、農業法人等と連携強化を図り農業体験を提供するなど、民泊と農業体験を切り離すなどの見直しをしながら受入世帯の確保を進める。

スポーツ合宿支援では、大会参加時にも利用できるように要件を緩和したが、利用者の増加にながっていないことから、制度のさらなる見直しが必要である。大学等との交流の枠組みづくりについては、新たに長期研修の受け入れを実施することで、大学連携による地域活性化に取り組む。

(2) 都市ブランドの確立

(ア) ブランドコンセプトの確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
鹿角に愛着を持つ人の割合	—	77.3%	73.6%	69.3%	68%

【検証】

平成 28 年度からブランド推進協議会を立ち上げ、ブランドコンセプトの確立を進めている。PR 事業を行う市民団体への支援により、市内外に対して地域資源の優位性が再認識されており、市民の地域愛の高さを生かし、市外の人々が訪れたくなる魅力的な地域づくりを進める。

(イ) 地域資源の信頼向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
鹿角市の全国的な魅力度順位	564 位	510 位	525 位	414 位	320 位

【検証】

ブランド製品の品質向上や生産性を確保し、産地としての信頼獲得を進めるとともに、新ブランドの創出に引き続き取り組む。各支援制度により淡雪こまちや北限の桃の作付け、かつの牛の飼養頭数が伸びているほか、そばについては主な法人への検査体制構築支援により、生産から検査まで一貫した生産・出荷体制が整った。

(ウ) 魅力の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
鹿角市の全国的な認知度順位	711 位	661 位	660 位	686 位	520 位

【検証】

移住促進の取組及び全国規模のスキー大会等の開催のほか、ふるさと鹿角応援寄附制度の活用やシティプロモーション認定事業によりメディアへの露出機会が増加した。また、地域開発映画プロジェクトの推進に地域ぐるみで取り組み、全国的な発信力を発揮していくための体制づくりが進んだ。

基本目標 3

笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

▶ 基本的方向

結婚を望む独身男女への出会いの場の提供と結婚に向けた支援を行うほか、保育環境の充実により待機児童ゼロを維持するとともに、出産・子育てに要する経済的な負担を軽減するなど、子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる環境づくりを進め、若い世代が結婚・出産・子育てしやすいまちを目指す。

数値目標	基準値	実績値（H25-H29）	目標値
合計特殊出生率	1.58（H20-H24）	—（H30 年度に公表）	1.8（H31）

【検証：現状と方向性】

後期基本計画のスタートとともに、予定した子育て支援の強化を計画どおり進めており、今後も結婚・子育てに希望を持てるよう若い世代を支えていく。また、分娩機能の集約に対しては、市独自の医師確保対策と並行して妊婦の相談体制や通院支援の強化を図り、市民の不安解消に努めていく。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

（１）結婚しやすい環境づくり

重要業績評価指標 （KPI）	基準値	実績値 （H27）	実績値 （H28）	実績値 （H29）	目標値 （H31）
出会いイベント提供数	—	10 件	累計 16 件	累計 22 件	累計 40 件

【検証】

首都圏女性と市内男性との交流イベントや補助制度を活用した出会い応援イベントの開催により、出会いの機会の拡充が図られ、昨年引き続き成婚に結びついた。また、若者への結婚に要する資金貸付制度については、要件緩和や周知方法を工夫したこともあり、制度を利用したい子育て世代の支援に結びついている。

(2) 安心して出産できる環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
市内の産婦人科医師数	3人	3人	3人	3人	3人

【検証】

岩手医科大学への寄附講座設置や継続した医師確保活動を進めてきたが、産科医療については、医師不足を背景に、市内の分娩取扱機能が大館市立総合病院に集約されることとなったことから、産婦人科医の確保はさらに難しい状況となっている。大館市立総合病院への距離、特に冬期間の移動に不安を感じている声が大きいため、市独自の医師確保対策と並行して、集約に合わせた妊婦支援策を実施する必要がある。

(3) 子育て支援サービスの充実

○ 母子の健康づくり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
むし歯のない3歳児の割合	69.6%	68.6%	69.1%	79.0%	78.3%

○ 子どもの預かり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
放課後児童クラブの待機児童数	1人	1人	3人	0人	0人

○ 保育体制の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
保育園の待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人

○ 小児医療等の確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
小児・産婦人科医師数	6人	6人	6人	6人	6人

【検証】

2歳児のフッ化物塗布を継続していることにより、むし歯のない3歳児の割合が大きく伸び、県平均を上回った。放課後児童クラブは、花輪地区の2つの児童クラブにおいて登録地区の見直しを行ったことと合わせ、十和田児童クラブで教室利用の調整を図ったことで待機児童の発生を回避することができた。クラブ活動の社会体育化の進展を控え、今後も待機児童をゼロにしていく必要がある。

（４）子育てに伴う経済的負担の軽減**○ 保育料の軽減**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
保育料軽減率（全体）	29.0%	31.1%	33.1%	32.6%	30.0%

○ 第3子以降の子育てにかかる費用の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
出生数に占める第3子以降の割合	22.7%	24.7%	23.2%	23.3%	27.7%

○ 医療費の助成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
子育て支援の満足度	46.2%	55.8%	53.7%	48.3%	55.0%

【検証】

子どもの進級・進学に伴う家庭の経費負担軽減のため、中高生の制服や指定通学カバン等を回収し、必要な方に提供することができたほか、平成28年度からは第2子以降の保育料無料化を実施している。また、福祉医療給付についても、市独自に高校生世代まで給付対象を拡大している。子育て支援の満足度については、前年を5.4ポイント下回ったが、マイナス評価の理由として「医療体制」が挙げられている。

基本目標 4

笑顔あふれる地域をつくる

▶ 基本的方向

人口減少が進行しつつも持続性ある地域社会の形成を図るため、中心市街地の魅力や快適性・利便性、交通アクセスを向上させることにより賑わいを創出し、本市における拠点性の維持を目指す。

また、地域住民が主体性を持ち、地域課題の解決に向けた活動に取り組めるよう支援体制をさらに強化するとともに、地域活動に積極的に取り組む人材の確保と育成を進め、自治会をはじめとする地域コミュニティの活性化を目指す。

さらには、健康ではつらつとしたシニアライフを楽しむことができ、また、何らかの支援が必要になった場合でも、住み慣れた地域で自立した生活ができる社会の実現を目指す。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
住みごこちの満足度	54.7%	55.2%	52.5%	51.1%	60.0%

【検証：現状と方向性】

満足度に関する基本目標や KPI が下降したことを重く受け止め、中心市街地については鹿角花輪駅前広場の整備を進め、交通アクセスの向上による各公共施設等の利用増を図りながら、商店街でのソフト事業と連動し、賑わい創出につながるよう進める。

地域コミュニティについては、集落支援員による支援を行った小規模自治会で活性化に向けた活動が前進しており、新たな支援ニーズも生まれている。

健康長寿については、介護予防活動・健康づくりと認知症対策など、地域で支え合える体制の確立を進める。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（１）まちなか賑わい創出

（ア）中心市街地の魅力の向上

○ 商業機能等の集積

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
商店街空き店舗数	35 店舗	35 店舗	38 店舗	38 店舗	25 店舗

○ 多彩なイベント

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
がんばる商店街応援事業 イベント参加者数	11,700 人	17,933 人	28,206 人	8,070 人	12,200 人

○ 地域資源の保存・創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
民俗資料館入館者数（年間）	200 人 (直近3年平均)	—	—	1,406 人	1,000 人

【検証】

商店街の空き店舗については増加傾向にあるため、空き店舗バンクを開設し、情報のマッチングが図られたことにより、空き店舗1件の解消に結び付いたが、総数の減少には至っていない。また、家賃の高さや駐車場の問題などの外的要因に加え、商店街の魅力の向上とともに起業者が商店街への出店を通じて売上げの増加や経営の安定化が図られる仕組みづくりが課題となっている。

花輪商店街においては、コモッセのイベントと連動した取組が一定程度実施されたが、コモッセの利用者数が過去最高の345,348人となる一方で、商店街での賑わい創出までには至っていない。歴史民俗資料館の利用者数は小学校の社会科見学にも活用され目標を上回る1,406人であったため、これら施設利用者による商店街への回遊性を高める必要がある。

（イ）中心市街地における快適性や利便性の向上

○ 社会基盤の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
中心市街地の環境に 満足している市民の割合	53.5% (4年平均)	59.0%	53.8%	49.1%	58.5%

○ まちなか居住の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
中心市街地歩行者数	4,307 人	3,351 人	3,543 人	2,925 人	4,700 人

【検証】

コモッセの年間 32 万人以上の交流人口やまちなかオフィスに勤務する 70 人以上の滞留人口などにより、人の流れに変化がもたらされ、飲食店等の新規出店や店舗リニューアルも見られる。

インフラについては、鹿角花輪駅前の交通動線の改善に加え、観光案内所機能の強化や花輪ばやしなどのイベント広場となる交通結節点として花輪駅前広場の整備を進めていく。今後さらに商店街との連携により来街者の回遊性を高めるとともに、まちなかの空き家を活用した住み替え支援により居住人口の確保を図る。

(ウ) 中心市街地のアクセス向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
たんぽこまち号の 利用人数（年間）	14,950 人	15,210 人	14,594 人	13,729 人	15,714 人
数年間公共交通を利用 したことが無い人の割合	58.8%	55.8%	55.0%	66.3%	51.3%

【検証】

市街地循環バス「たんぽこまち号」の利用者は減少傾向にあるが、乗車密度は 8 人台が維持されており、利用者にとっては欠かせない交通手段となっている。中心市街地へのアクセス向上のためには、中心市街地のインフラ整備を進めるとともに、循環バスの路線のエリア外からのアクセス向上を図るため、地域乗合交通への支援や路線の見直しを進める必要がある。

(2) 地域コミュニティの活力再生**(ア) 地域人材の確保**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
人材育成塾延べ塾生数	—	—	—	16 人	45 人

○ 外部人材の活用

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
外部人材活用自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 12 自治会

【検証】

自治会リーダー研修会の開催や計画づくりを行おうとする自治会での話し合い支援などにより、地域内での人材の確保・育成を進めた。また、鹿角 GENKI カレッジの塾コースを開講し、学んだことを地域に還元する活動を行う若者の育成を進めた。外部人材の活用については集落支援員の配置により、自治会での話し合いを経て地域資源などを生かして自治会が主体的に取り組む活性化活動に関する計画の策定に結び付けることができた。

(イ) コミュニティ支援体制の強化**○ 地域づくり協議会の強化**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
地域づくり協議会事業 の参加者数	37,664 人	48,787 人	40,929 人	39,804 人	39,600 人

○ 集落支援員の配置

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
外部人材活用自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 12 自治会

○ 活動費等への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
社会活動や地域活動に 参加した市民の割合	70.5%	67.5%	61.9%	56.6%	74.0%

○ 活動拠点の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
自治会コミュニティ 活性化支援件数	—	11 件	累計 24 件	累計 40 件	累計 25 件

【検証】

地域活動等への参加率は減少傾向にあるが、助成金を活用した活性化事業は増えており、比較的まだ一定程度の活動レベルにあるといえる。しかし、今後、ますますコミュニティの弱体化が進むと思われることから、新たに集落支援員の配置を望む自治会にも順次支援を行っていく。

(3) 健康生き生き長寿社会の実現

(ア) 豊かなシニアライフの促進

○ 健康づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
要介護・要支援認定率	18.0%	17.8%	17.3%	17.8%	17.9%

○ 介護予防の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
地域生き生きサロン参加者数 (年間)	1,792 人	4,393 人	7,597 人	11,338 人	5,792 人

【検証】

地域生き生きサロンの新設が進んでおり平成 29 年度末で 20 箇所となったことで、介護予防に取り組む参加者も大幅に増加している。要介護・要支援の認定率が昨年比べて悪化したが目標値は上回っており、取組の効果を検証するにはさらに経年の変化を見る必要がある。

(イ) 高齢者の安心を支える福祉サービスの充実

○ 高齢者の見守り支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
見守りネットワーク 協定事業所数	59 事業所	60 事業所	60 事業所	60 事業所	68 事業所

○ 日常生活の援助

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
軽度生活援助サービス 提供時間	4,543 時間	3,348 時間	4,183 時間	5,230 時間	4,924 時間

○ 家族介護への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
相談会、交流会延べ参加数	—	47 人	56 人	40 人	80 人

○ 認知症への総合対策

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
認知症サポーター1 人に 対する高齢者数	5.3 人	4.8 人	4.5 人	4.3 人	3.4 人

○ 介護関係施設整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	目標値 (H31)
整備施設数	—	—	2 施設	累計 2 施設	累計 2 施設

【検証】

介護サービスを提供する施設で行っている介護支援ボランティア事業では、高齢者の社会参加や自身の介護予防にも繋がっており、受け入れ施設側職員の負担軽減にもなっている。高齢者の見守りについては、民間事業者 60 事業所との協定による見守り体制を構築しているほか、NPO 法人による食事の配食サービスによる日常的な安否確認が行われている。

認知症対策については、初期集中支援チームを配置し、認知症ケアパスの活用や、認知症カフェの設置、お守りシールの配布など当事者の声を取り入れた取組を推進しながら、総合的な支援体制を構築している。介護関係施設は平成 28 年度に 2 施設が整備されたことで、47 人の定員増加が図られている。

III 検証スケジュール

- ・平成 30 年 6 月

第 6 次総合計画後期基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業実績に関する庁内ヒアリング

- ・平成 30 年 7 月 30 日

行政評価推進本部による評価

- ・平成 30 年 8 月 2 日

行政評価市民会議による評価

- ・平成 30 年 8 月中旬まで

政策アドバイザーによる評価

- ・平成 30 年 10 月 9 日～11 日

市議会決算特別委員会開催（資料配付）